

第181回くらしの植物苑観察会 2014年4月26日(土)

趣味で桜草 -巨大輪桜草の紹介-

茂田井 宏 (野田さくらそう会代表世話人)

桜草は一株当たりの花茎や花の数が少ないこともあり、見ごろが短く、商業ベースに乗りにくい傾向にあります。そのため、江戸期の連の伝統を引き継ぐ各地のさくらそう同好会が、品種の普及と保持に努めてきました。桜草の品種については、江戸時代から継承された品種に、その後作出された新花が加わり、これらが淘汰されながらも次第に品種数を増してきており、近年では交配技術の進歩もあって、さらに品種が多彩になってきました。しかし、新花の評価が固まって普及するまでに、十数年の時間がかかるので、その間消えていく幻の優秀品種が多々あります。品種によっては、生育の弱い品種があるため、絶滅は避けられず、新花がその分を補充し続けてきた歴史があり、桜草の発展は「新花あつての古花がある」が基盤です。そこで、最近の代表的な育種家の作品を集め、展示によるアピールをして、桜草の普及の一助にしたいと思います。

今まで、私が衝撃を受けた新花には次の2つの品種群があります。

1つは加茂花菖蒲園の一江豊一氏の作出した八重咲桜草です。2つ目はさくらそう会(東京)の宮崎三千男氏が交配によって作出した4倍体の巨大輪桜草です。前者は直売りされているので、比較的入手しやすいのですが、後者は個人の作品なので、愛好家の間でしか流通しておらず、あまり普及していません。

栽培下でも4倍体は偶然に現れます。現在知られている品種は明治期の植木屋である荒井与左衛門によって発見された「大和神風(別名;神風)」と昭和期に塚越豊氏により見出された「緋の重」のみです。この2種は細根の少ない牛蒡のような根になりやすく、しかも葉片も少ないため、増殖しにくい「いわく付きの桜草」で、繁殖や普及が困難な品種です。

やまとじんぼう/じんぼう
(大和神風/神風)



通常の桜草は24本の染色体を持つ2倍体(2n=24)ですが、中には3倍体(2n=36)、4倍体(2n=48)の品種が知られています。遺伝子の総量が倍加すると、もとの品種と比べて全体的に大型化し、強壮、巨大輪になります。

ひ かさね
(緋の重)



現在、玉川大学の山口聡氏の調査¹⁾では、ほとんどの品種が2倍体ですが、以下の品種が3ないしは4倍体であることが明らかになりました。

3倍体：「白鷺」、「笹の浪」、「駅路の鈴」、「隠れ蓑」、「紫雲の重」、「目白台」、「嵐山」
「獅子頭」、「天女」

4倍体：「大和神風/神風」^{やまとじんふう じんふう}、「緋の重」^{ひ かさね}

大輪の品種を元にして、人為的に4倍体を作ることにより巨大輪の品種の出現が期待されます。その先駆者が宮崎氏だと思います。

当苑では江戸期の古花の展示は勿論のこと、現代の新花も紹介して、桜草の保存と普及に努めたいと思っています。

宮崎三千男氏の巨大輪桜草の紹介

「夢の華」^{ゆめのはな} (吉田宗昭氏提供)



「桜鼠」^{さくらねずみ}



「濁り酒」^{にごりさけ} (吉田宗昭氏提供)



「清風明月」^{せいふうめいげつ}



(1) 山口聡 (1973) 育種学雑誌 23, 86-92.

注) 古花：明治以前に作出された品種 (伊藤銘鑑記載以前)

新花:それ以降の品種と便宜上規定します。

.....
次回予告 第182回くらしの植物苑観察会 2014年5月24日(土)

「里山の植物利用 一食べもの」 島立 理子 (千葉県立中央博物館主任上席研究員)

13:30~15:30 (予定) 苑内休憩所集合 申込不要